

# 宇宙生命哲学

## ことはじめ

50

北里環境科学センター  
名誉顧問／宇宙生命哲学者

伊藤 俊洋

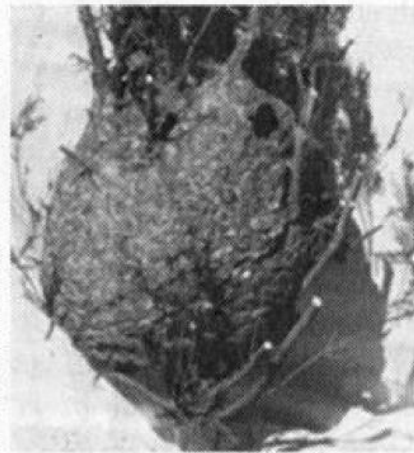
### キイロスズメバチの巣の撤去大作戦

サイエンスカフェ・コスモス（宇宙生命哲学研究所）は、自宅から200メートル程のところにある築50年の古民家を改装した2階建てである。入手したのは12年ほど前で、庭にはヒバの木が5本、センダンの木、ヤマモモなどが茂り、メダカやフナ、水草が生息するビオトープや花壇もあるが、小さな草花は生えるに任せ、昆虫の楽園でもある。普段は、サイエンスや哲学を語る交流スペースとして利用し、科学演示実験のコンテンツも充実している。

今年、樹高約10メートルのヒバの木にキイロスズメバチが巨大な巣を作った。夏の盛りには全く気付かなかったが、9月中旬になって隣人からハチがたくさん飛んでいるとの通報があった。調べてみると、高さ7メートル程の枝の密集しているところに巣があった。危険防止のために、直ぐに巣を取り除くことにした。

まず、相模原市役所生活衛生課から防護服2着を借用し、スズメバチ用殺虫スプレー（550ml）

を5本購入した。巣のある樹木に隣接する空き家の2階のテラスを借用して、まず、十分下見をした。翌日、細心の注意を払って、巣の入り口から殺虫



キイロスズメバチの巣  
最大幅約57cm 縦約67cm

剤をスプレーすると、先発の兵隊バチ、続いて働きバチが続々と飛び出してきた。30分ほどで初日の駆除作業は終了した。翌日、スプレー作戦を続けながら巣の周辺の大きな枝を落とし、台風の余波を受けた1日をおいて成虫の駆除はほぼ完了した。4日目には、さらに巣の周辺の枝を落とし、巣を地上に下ろした。横幅約57センチ縦約67センチの面長の形であった（写真）。

夏の間、庭仕事をしていてもハチに襲われることがなかったのは、私達が巣の存在に気付かず、手を出さなかったためだろう。彼らは無駄な殺生はしない。しかし、今回は、巣を取り除かねばならない。そんな時、物体を白黒の明暗でしか識別してはいないといわれるスズメバチに対して、自尽くめの防護服と巣の中に殺虫剤を噴霧するスプレー竿は、とても

有効であった。

一部剥がれた巣の裏面から中を見ると、幼虫の養育棚はおよそ10段。段の途中には中二階構造があり、成虫が幼虫の世話をするための移動が容易にできる仕組みになっていた。人が手本にしても良いほどの生活の知恵と、整然としたチームワークの流れが見て取れた。思いがけなく身近なところで、生命の営みの深さを体感する仲秋の出来事であった。